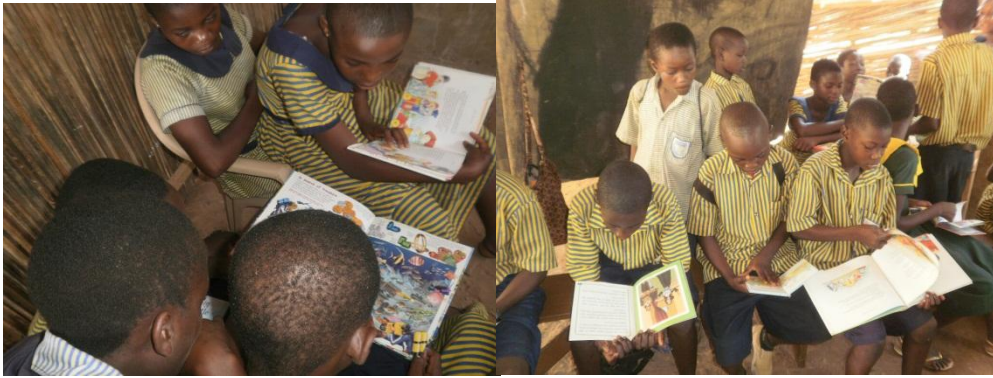


☆ 図書室運営は、自問自答の繰り返しです。

パワーアワースクール1学期最後のライブラリーを中止にして、かなり後ろ髪ひかれる思いで、アフィフェ村での活動開始となった12月第3週目。アフィフェ村のデバイン・アカデミースクールでもライブラリーをオープンさせる為に、たくさんの本を持って村入りしました。この週は、学期末テストも行われていたので、テストをしていない、クラスから順に教室を訪れ、ライブラリーを開きました。パワーアワースクールの図書室の運営と大きく違うのは、放課後の開室ではなく、現段階では、フリータイムの教室を訪れライブラリー。図書係は設けていなく、また貸出しも行っていない。利用者はノートに名前を記載というスタイルは行っています。今回、作戦をたててみることにしました。それは(上のクラスから下のクラスに訪問する)という方法です。上級クラスの子どもたちに、図書室のスタイルを教え築きあげていけば、きっと下級クラスで図書室を運営する時、手助けしてもらえるのではないか?という思い。また、上級生が下級生に自分の知っていることを伝える・教えるという子どもの育つ力を引き出したいという思いもあってのことです。この作戦は、初日で、上手くいったな...という実感がありました。上級生が下級生に、ノートに名前を書くスタイルを伝える。カバンの中にある本を整理をする。っという2点が実感としたことです。ただ上手くいく事ばかりではありません。「大切な本だから...」と何度も言っている中、物を食べながら、ページを折り目を付けてめくる...。ついに爆発してしまったのが、P3 のクラス。「食べながら、読まないで」と注意を受けた子どもは、ポカンとしている状態。一方、びっくりした様子だったのが、私の横で本の整理をしてくれていた P4 の女の子。自分の中で、自問自答が繰り返されました。「英語が通じないのかな?...じゃあ、もっと私が現地語を覚えようよ」「大切なもの...という大切って言葉の意味が分からないのかな?...じゃあ、もっとも子どもと信頼関係築いて、大切って言葉の意味を伝えていけばいいじゃない?」

幸いにして、子どもたちは、どんなに私が怒っても「トシコ〜」「トシコ〜」とやって来てくれます。これが、私にとって救いです。

自問自答しながら、違う場所違う環境でスタートしたデバインアカデミースクールでの図書館。14日(火)は、4クラス訪問して、72人の利用。15日は、1クラスの訪問で21人の利用でした。



初日の様子(ブルーのシャツの女の子は、本を整理してくれています)



デバインアカデミー学校の図書館用の本は、パワーアワースクールとは別に買い揃えています。

トシコ・ライブラリー館長

トシコ・アブナ